

ステンレス製建具

1. 評価対象

「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下「標仕」という。）令和4年版16章6節に規定するステンレス製建具とし、簡易気密型は、対象外とする。

2. 品質・性能等

- (1) 品質・性能について、「評価内容（別紙）」の項目を確認している。
- (2) 主要な資材について、材質および資材メーカーから申請者の製造所への納入ルートを確認している。
- (3) 性能について、実施要領に規定する試験機関による試験結果等で確認している。

3. 注意事項

- (1) 標準仕様書令和7年版の改定において、「屋内に雨水浸入のおそれのある接合部には、その箇所に適したシーリング材又は止水材を用いて止水処理を行う。」との規定が追加されたが、確認していない。ただし、変更申請がなされ、確認済みの場合は、「申請者等情報」の欄に特記事項として、“接合部の止水処理有”と表示している。

ステンレス製建具

評価内容（別紙）

項 目		品 質 ・ 性 能		備 考										
材 料	ステンレス鋼板	材 質	JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1											
		表 面 仕 上 げ	HL											
	裏板、力骨、中骨、 補強板の類	材 質	JIS G 3302											
		めっき 付着量	JIS G 3302 による Z12 または F12 以上											
	くつずり	材 質	JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1											
		表 面 仕 上 げ	HL											
	押縁留付け用小ねじ等		ステンレス製											
構造用接合テープ		JIS Z 1541												
接 着 剤		アクリル樹脂系またはウレタン樹脂系の 2 液型												
形 状 ・ 仕 上 げ	鋼板類の厚さ		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">使用箇所</th> <th style="text-align: center;">厚さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">一 般 部 分</td> <td style="text-align: center;">1.5</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">く つ ず り</td> <td style="text-align: center;">1.5</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">裏板、力骨、中骨</td> <td style="text-align: center;">1.6 以上</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">補 強 板 の 類</td> <td style="text-align: center;">2.3 以上</td> </tr> </tbody> </table>	使用箇所	厚さ (mm)	一 般 部 分	1.5	く つ ず り	1.5	裏板、力骨、中骨	1.6 以上	補 強 板 の 類	2.3 以上	
	使用箇所	厚さ (mm)												
	一 般 部 分	1.5												
	く つ ず り	1.5												
	裏板、力骨、中骨	1.6 以上												
	補 強 板 の 類	2.3 以上												
	製品の寸法許容差・ 相対する辺寸法の差		対象部位	ドアセットの寸法	許容差 (mm)									
			幅および高さ	2,000 未満	± 1.5									
				2,000 以上 3,500 未満	± 2.0									
				3,500 以上	± 2.5									
枠見込			120 未満	± 1.0										
			120 以上 150 未満	± 1.5										
			150 以上 200 未満	± 2.0										
			200 以上	± 2.5										
幅および高さの 相対する辺寸法 の差		対象部位	ドアセットの寸法	相対する辺寸 法の差 (mm)										
		幅および高さの 相対する辺寸法 の差	2,000 未満	2 以下										
			2,000 以上 3,500 未満	3 以下										
			3,500 以上	4 以下										
ガラス溝の寸法、形状等		[申請者の規定による。]												
外部に面する建具の水抜き孔		網入り板ガラス、線入り板ガラス、合わせガラス及び複層ガラスを受ける下端ガラス溝には、径 6mm 以上の水抜き孔を 2 か所以上設ける。また、セッティングブロックによるせき止めがある場合には、セッティングブロックの中間に 1 か所追加する。												
異種金属の接触により腐食のおそれのある箇所		接触腐食防止の対策を行う。												

ステンレス製建具

項目		品質・性能	備考
加工・組立	全般	注 意 点	加工および組立は、以下の内容を標準とし、特に雨仕舞および開閉具合に注意すること。
		溶接部、隅、角等	組立後、平滑に仕上げること。
		外 観	建具には、使用上有害なきず、欠け、割れなどがないこと。
		ステンレス鋼板の曲げ加工	普通曲げまたは角出し曲げ
		角出し曲げ	切込み後の板厚が 0.75mm 以下の場合、裏板を用いて補強すること。
		各 部 材 の 組 立	水掛りを除き、面内胴付き部を小ねじまたはボルト留めとすることができる。
	枠類	枠	隅は、上部は留めとして溶接または縦延ばし胴付き（面落ち可）溶接、下部は胴付きとし、外部に面するものは溶接とすること。ただし、屋内（水掛りを除く。）に使用する建具は、溶接に代えて小ねじ留め（裏板厚さ 2.3mm 以上）によることができる。
		く つ ず り	外部に面するものは両端を縦枠より延ばし、屋内（外部建具の屋内側を含む）は縦枠内に納め、裏面で溶接すること。
		水 切 り 板	両端は、水返し付き、枠に小ねじ留めまたは溶接とすること。
		中 か も い 、 無 目	両端は胴付き溶接、外部に面する箇所は見え掛りを避け胴付き部を全て溶接すること。ただし、屋内（水掛りを除く。）に使用する建具は、溶接に代えて小ねじ留め（裏板厚さ 2.3mm 以上）によることができる。
		方 立	両端は、胴付き溶接とすること。ただし、屋内（水掛りを除く。）に使用する建具は、溶接に代えて小ねじ留め（裏板厚さ 2.3mm 以上）によることができる。
		額 縁 、 ぜん 板	隅は留めとして溶接または縦延ばし胴付き（面落ち可）溶接とすること。
		枠類のつなぎ補強板	枠、くつずり、水切り板等の見え隠れ部には、つなぎ補強板を、両端から逃げた位置から間隔 600mm 以下に取り付けること。
		金物取合い補強板	枠の丁番、ドアクローザ、ピボットヒンジ等が取り付く箇所には、裏面に補強板を取り付けること。
	戸	かまち	縦がまちと上がまちの取合い
中抜き			1 枚板を中抜きする場合は、四隅を溶接すること。
下がまち			下部を包まず、□ 形の力骨を通してはめ込み、溶接または小ねじ留めとすること。
鋼板		表 面 板	力骨および中骨にかぶせ、接合は溶接、接着または小ねじ留めとすること。ただし、中骨は、構造用接合テープによることができる。
		押 縁	小ねじ留めとすること。
		外 部 に 面 す る 両 面 フラッシュ戸	下部を除き、三方の見込み部を表面板で包むこと。
力 骨 、 中 骨		力骨は戸の四周に設け、中骨の間隔は 300mm 以下とすること。	
金物取合い補強板	錠、丁番、ドアクローザ、ピボットヒンジ等の取り付く箇所には、裏面に補強板を取付けること。		

ステンレス製建具

項 目	品 質 ・ 性 能	備 考
性 能	ねじり強さ	開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。
	鉛直荷重強さ	残留変位が3mm以下で、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。
	開 閉 力	戸が円滑に開くこと、また円滑に閉じること。
	耐 衝 撃 性	1回の衝撃で有害な変形がなく、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。ただし、ガラスの破損は判定に含まない。
	開閉繰返し性能	開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。
試 験 方 法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ねじり強さ試験は、JIS A 1523による。なお、載荷荷重は200Nとする。 2. 鉛直荷重強さ試験は、JIS A 1524による。なお、載荷荷重は500Nとする。 3. 開閉力試験は、JIS A 1519による。なお、載荷荷重は50Nとする。 4. 耐衝撃性試験は、JIS A 1518による。なお、砂袋落下高さは170mmとする。 5. 開閉繰返し試験は、JIS A 1530による。なお、開閉回数は10万回とする。ただし、ラッチの開閉試験は除く。 6. 試験体サイズおよび形式は、W 950mm × H 2,400mm程度で丁番吊りとし、形式は、かまちタイプのガラス戸とする。ただし、中棧入りも可とする。また使用ガラス厚さは6.8mmとする。 	